

# 協働

# 協創

# 推進の手引き

協創力でつくる

活力にあふれ 進化し続ける

ひと・まち 足立

平成30年8月

▲ 足立区



## はじめに

足立区は、平成16年に策定した前基本構想のなかで、区民と区が互いに協力し合い「協働で築く力強い足立区の実現」をその基本理念と決めました。

スタート時点では「官主導」の色彩が色濃かったものの、その後リーディングプロジェクトなどを通して、区民の皆様とともに多様な協働事業が展開されていきました。

現在では、地域活動の担い手である町会・自治会をはじめとする地域団体との協働や、区民組織、ボランティア団体との協働も進み、特にビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、絆づくり、子ども食堂などの分野では大勢の区民、事業者が係わり合い、区内に協働の理念が浸透しつつあります。

一方、人口減少・少子超高齢社会を背景に、区を取り巻く諸課題は、一層複雑化・多様化し、行政からの働きかけを主としてきたこれまでの協働だけでは解決しきれない現実に直面しつつあります。

「治安・学力・健康・貧困の連鎖」という4つのボトルネック的課題に、数字の上からも成果が表れはじめました。今こそ、新たな仕組みを構築し、課題の完全克服へと更に取り組みを強化するとともに、ハード・ソフト両面において新たな魅力の創出にも積極果敢に取り組み、区内外の評価をさらに高める好機です。

そこで今般、新たな基本構想策定にあたり、30年後を見据え足立区が目指す姿を

### 『協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち足立』

と決めました。

「協創」とは、「互いの個性や価値観を認めあい、ゆるやかにつながり支えあうことで、より一層力を発揮する仕組み」です。

その「協創」を推進するため、新たな手引書を作成し、一步一步着実に協創への歩みを進めていきたいと考えます。

これまでの協働を基盤としつつ、未来へ挑戦する新たな力強い力＝「協創力」で足立区を動かし、「進化し続ける ひと・まち」実現の「道標ベ」として、本手引きを是非ご活用ください。

# 目次

## 第1章 「協働」そして「協創」へ

- 1 協働・協創の定義 ..... 1
- 2 協働から協創への発展過程 ..... 1
- 3 協働と協創の関係 ..... 4

## 第2章 協創の事例

- 協創の事例 ..... 5
- 1 安全・安心のまちづくり（ビューティフル・ウィンドウズ運動） .... 6
- 2 健康寿命延伸の取組み（あだちベジタベライフ） ..... 10

## 第3章 協創を推進するポイント

- 協創を推進するポイント ..... 14

## 第4章 協創に向けての自己点検

- 協創に向けての自己点検 ..... 16

## 第1章 「協働」そして「協創」へ

---

本章では、これまで区が掲げてきた「協働」の理念と、新基本構想のキーワード、「協創」について説明します。

### 1 協働・協創の定義

平成16年10月に策定された前基本構想では、「協働で築く力強い足立区の実現」を基本理念に掲げ、平成17年3月策定の前基本計画において、協働を『区民と行政、または様々な主体同士が、お互いの特性と役割の違いを理解し、共通の目的のもとに相乗効果を上げながら、公共的課題に取り組むこと』と定義するとともに、区の経営理念と位置づけました。

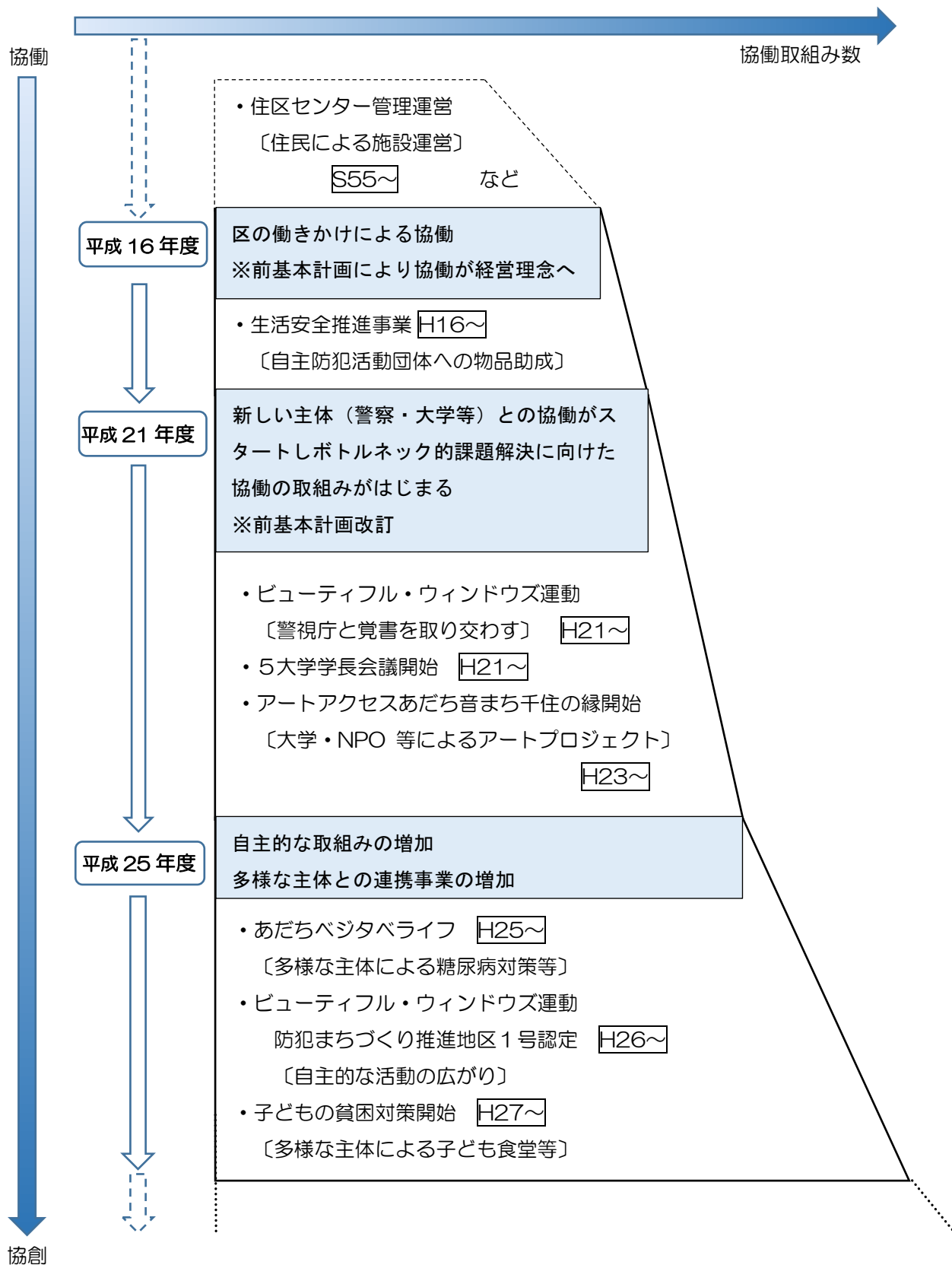
一方、平成28年10月に策定された新基本構想で掲げられた理念が、「協創」です。繰り返しになりますが、「協創」とは「互いの個性や価値観を認めあい、ゆるやかにつながり支えあうことで、より一層力を発揮する仕組み」です。協働との大きな違いは、協働が行政主導で地域課題を解決していくのに対し、協創では、地域の多様な主体の自主的・自立的な取り組みを、行政がコーディネート・マッチングして後押しすることで、地域課題の解決を進めていくところにあります。

### 2 協働から協創への発展過程

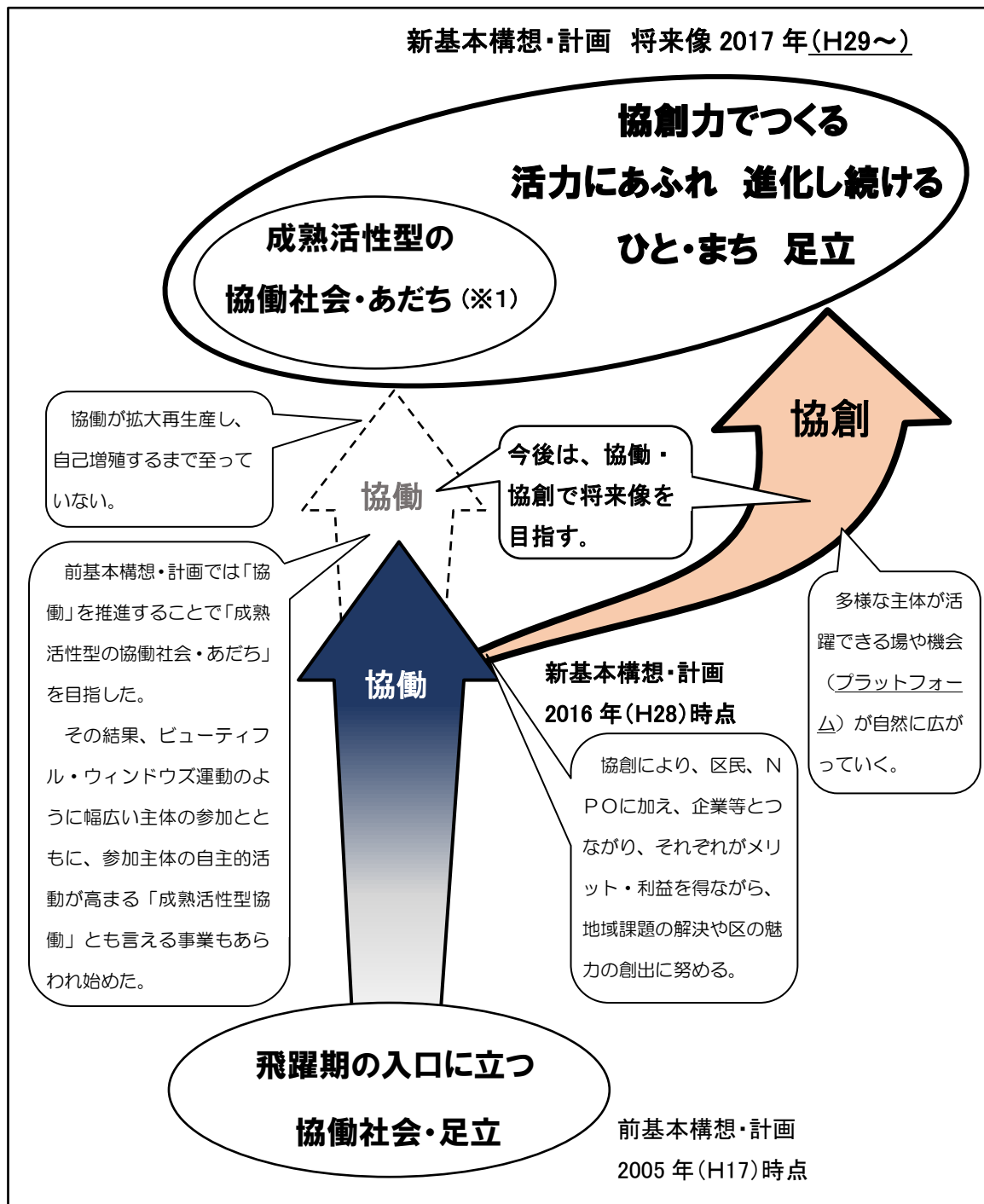
区が協働の理念を掲げる以前から、住区センターの自主管理など、協働の形をとった取り組みはありましたが、前基本構想の策定をきっかけに、その数は増大していきました。また、平成21年度からボトルネック的課題解決に向けた協働の取り組みがスタートし、多様な主体との連携や自主的な取り組みが増加していったのが平成25年度でした。

つまり、ボトルネック的課題の克服にあたっては、多様な主体を巻き込みながら、事業そのものの内容も深まってきており、意識していたわけではありませんが、当区では自ずと協働から協創への道程を歩んできたこととなります。以下、時系列で協働から協創への発展過程を示します。

# 第1章 「協働」そして「協創」へ



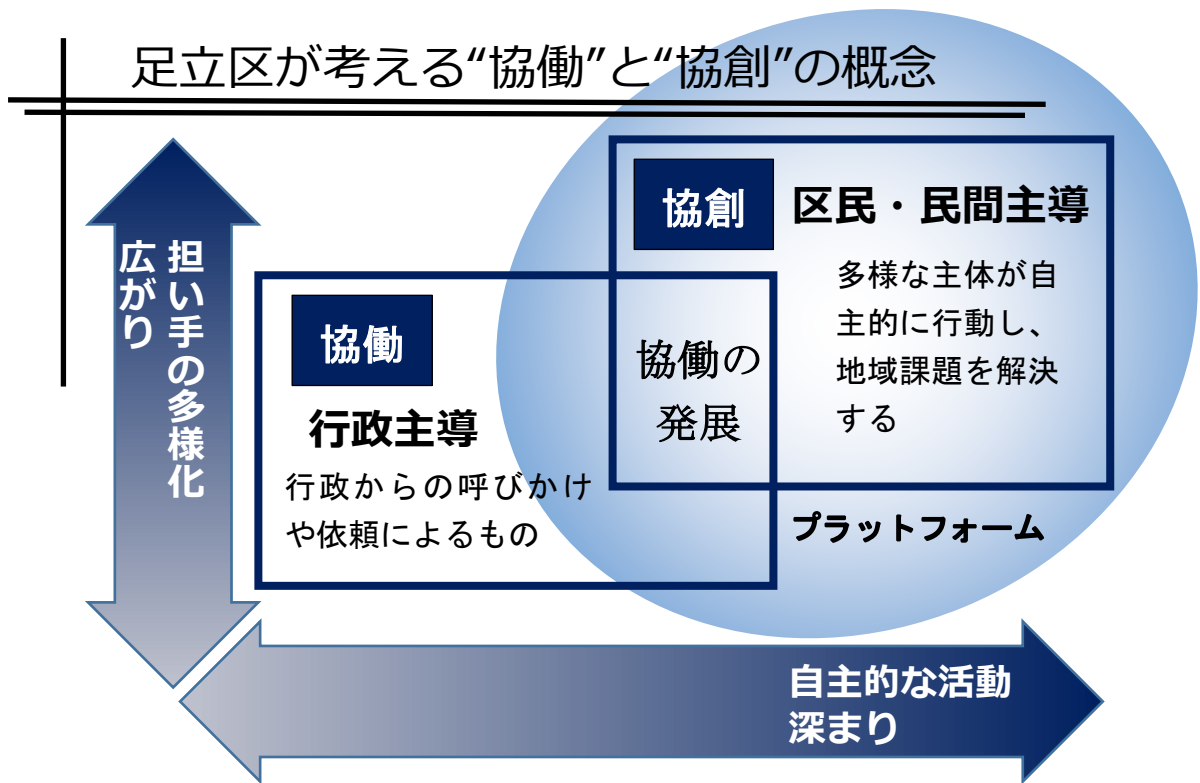
前基本構想・計画で目指した「協働」と新基本構想・計画で目指す「協創」



(※1) 民間企業・団体・NPO間が、相互に働きかけを行い、「協働」の事業が活発に実践されているとともに、「協働」のネットワークが拡大していく社会

### 3 協働と協創の関係

前節までに示した協働と協創の概念を、改めてまとめます。



#### 「協働」の特徴

- 地域課題の解決に向けて、主に行政が目的や手段を設定している
- 行政からの呼びかけや依頼に応じた、参加・活動を継続している

#### 「協創」の特徴

- 「協働」ではたどり着けなかった地域課題の解決や、新たな魅力の創出に取り組んでいる
- 多様な主体が自主的に行動し、ゆるやかにつながっている

#### 「プラットフォーム」とは

- 多様な主体がつながり、活躍できる場や機会
- 協創に必要な不可欠な、担い手の多様性の「広がり」・自主的活動の「深まり」を支える土台となる



## 第2章 協創の事例

---

本章では、協創の具体的事例を紹介していきます。

区ではこれまで、町会・自治会等を協働のパートナーとして捉え、区民協働を進めながら、区民主体により、地域課題解決の活動に取り組んできた一方、協働の担い手としてNPO活動も支援してきました。とりわけ、区の課題にチャレンジする事業型NPOの成長に期待を寄せてきました。また、広く民間の優れた発想を活用するために、企業提案型協働推進事業なども実施しましたが、長く継続した事業は少なく、尻すぼみに終わりました。

しかしながら、ビューティフル・ウィンドウズ運動は、「刑法犯認知件数ワーストワン脱却」という旗印のもと、庁内が一丸となって取り組むだけでなく、警察や民間企業等、これまで区とのかかわりが薄かった主体との幅広い協働が進みました。さらに、防犯パトロールに町会・自治会の自発的な活動が広がるなど、前基本計画に最終目標として掲げた「協働が量的に拡大・質的に深化(※1)した成熟活性型協働」と言えるところまで成長しました。

こうした背景には、人口減少・少子超高齢社会の更なる進展の下、庁外の専門性に優れた主体の参画なしには解決しえない、諸課題の急増があります。そのため、新たな発想や解決策を持った人々と、より広い領域でつながりあう必要にせまられているのです。まさにそれが、「協創」を新たな理念として掲げたゆえんです。

次頁からは、安全・安心のまちづくり（ビューティフル・ウィンドウズ運動）・健康寿命延伸の取組み（あだちベジタベライフ）の2つの事例を用いて、協働から協創への発展過程を示します。P15の「協働・協創を推進するうえでの視点」と併せて見ることで、協創事業を進めるうえでのポイントが見えてきます。

(※1) 物事の程度が深まること。ここでは、区の依頼に基づく活動にとどまらず独自の発想・工夫や特性を発揮した自主的な活動に深まっている状態

## 1 安全・安心のまちづくり（ビューティフル・ウィンドウズ運動）

協働

活動の基盤を整備

平成16年度 地域防犯活動助成金の開始

- ・町会・自治会等の自主的な防犯活動を行う団体への物品助成を開始

平成20年度 「美しいまち」は「安全なまち」をスローガンに、より安全なまちを目指し、ビューティフル・ウィンドウズ運動（BWM）を開始

- ・これまでに別々に展開してきた様々な事業に共通の目的を持たせることで、区民、警察、行政等による総ぐるみの展開を図る

平成21年度 警視庁生活安全部と治安再生事業の推進に関する覚書締結

- ・警察との協働を強化

平成25年度

- ・「花のあるまちかど事業」開始。花でまちを彩りイメージアップを図るとともに、花の世話をする人の目で犯罪を抑止することを目指す。保育園、幼稚園から始まり、花店、商店街、住区センターとも協働
- ・区民団体や事業所等による清掃活動「ごみゼロ地域清掃活動」が全区的展開を開始

多様な主体との協働が  
はじまる

平成26年度 「防犯まちづくり推進地区」1号・2号認定

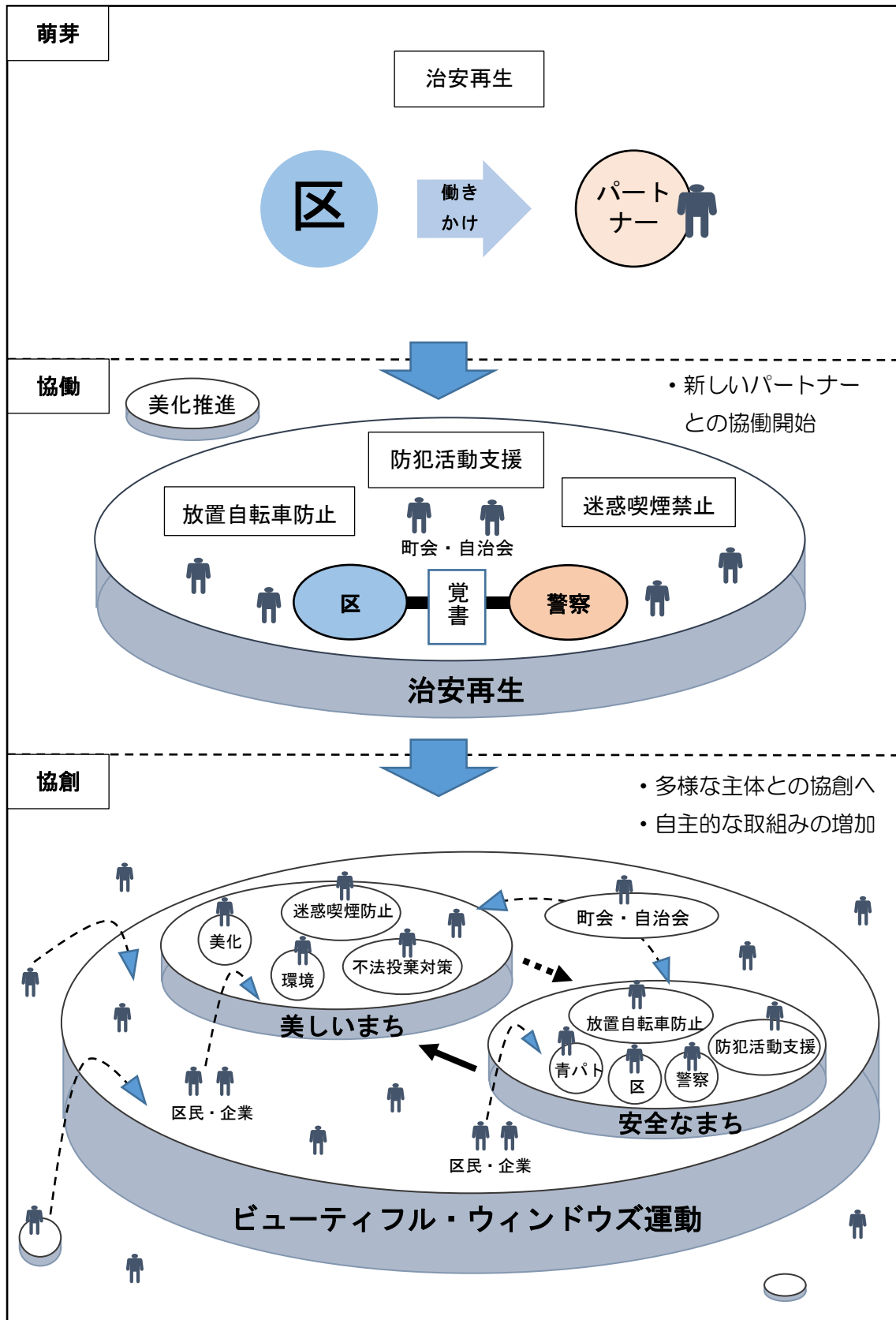
- ・町会・自治会における防犯活動の自主的な取り組み
- ・区内4警察署と新たに覚書を締結し、平成21年度に締結した警視庁生活安全部との覚書を発展的に移行
- ・犯罪への戦略・対策をきめ細かく練り直し、新たなる目標達成に向けた「誰もが実感できる安全で安心なまち足立区」を目指す

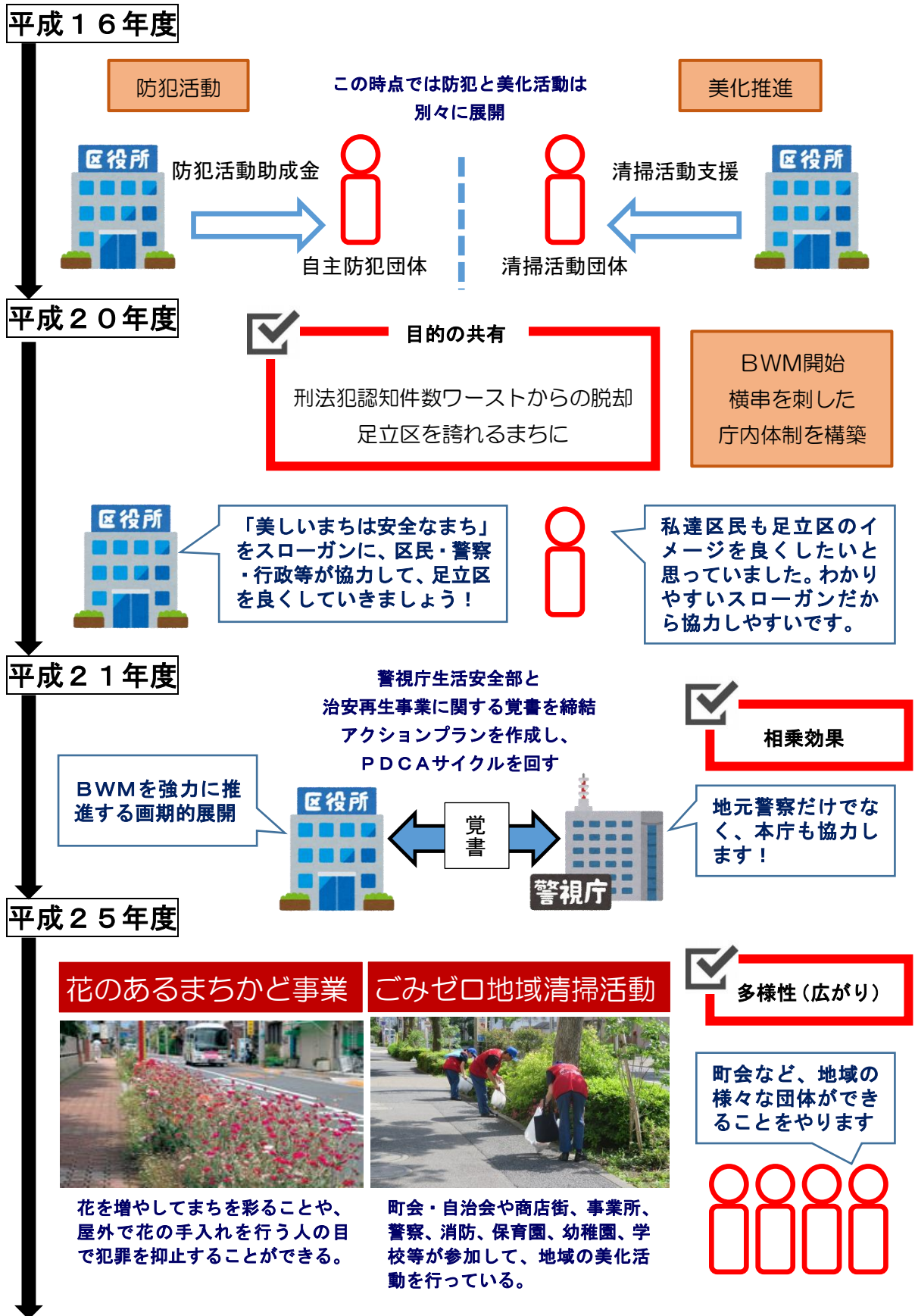
課題解決のための自主  
的な取り組みへと深化

平成30年度 現在の防犯活動者と美化推進活動者をつなぎ、情報の共有を図りながら、広がり・深まりを実現していく

- ・誰でもできる花植え活動や不法投棄通報協力員登録などにより、さらに活動者を増やす
- ・ポイ捨ての多い地域では、飲食店事業者等に協力依頼するなど、新たな関係を築いていく
- ・「防犯まちづくり推進地区」の拡大を目指し、協創を推進していく
- ・六町駅前における、交番に変わる「駅前安全・安心ステーション」の立ち上げを通じて、協創の新しいモデルを提示する

協創





平成26年度

防犯まちづくり推進地区1号・2号認定



自主性（深まり）



支援  
情報  
ヒアリング



防犯グッズの提供、防犯パトロール活動助成、情報の提供、警察や他の所管との調整などで、活動しやすい環境を整えている。

町会・自治会が防犯まちづくり推進地区になることで、地域の資源や強みを発揮して、自主的に「できること」を継続して実施している。

町会役員・警察・区職員などで「防犯まちづくり推進地区」の認定に向けたまちの防犯診断を行う。自分たちの町を知り、自分たちで町を守る。



認定

深まり



広がり



防犯まちづくり推進地区として認定後、ステッカー配布や学習会等を通じて取組みを後押し。

町会・自治会役員、専門家（防犯アドバイザー）、区職員が一同に会し、防犯についての意見交換を実施

- ・青パトで犯罪抑止
- ・散歩しながら防犯パトロール
- ・自治会独自の該当LED化
- ・空き家、空き地情報共有
- ・防犯カメラの空白地域ゼロ
- ・今後は防犯カメラ一括管理実施へ

平成30年度

防犯と美化の活動者をさらに繋ぎ、活動を日常化できるよう後押しします。



花のあるまちかど事業



お花屋さんとの協創により「ビュー坊ガーデンピック」を配布。花植える誰もがビューティフルパートナーに

ごみゼロ地域清掃活動



幹線通り沿いの自動車販売店やアミューズ企業も清掃美化活動実施団体に登録。社員のみんなで定期的清掃活動で地域に貢献

防犯まちづくり推進地区



防犯まちづくり推進地区をさらに増やして、自主的な防犯活動を活性化させる協創を推進。自分たちのまちは自分で守る

継続

## 2 健康寿命延伸の取組み（あだちベジタベライフ）



協働

平成7年度 健康づくり推進員との協働がスタート

平成13年度 健康あだち21行動計画 策定

- 行政のみならず、区民主体の健康づくりを応援する関係団体、企業に呼びかけ「健康あだち21会議」発足
- 平成20年度まで健康自主グループが増加

平成23年度 健康あだち21行動計画策定後10年経過

- 過去10年間の取組みを評価・分析
- 区民の意識調査と足立区の健康課題を精査し、糖尿病対策に重点を置く
- おいしい給食事業で「野菜の日」を制定

「野菜から食べる」という分かりやすさで協働が拡大

平成25年度 糖尿病対策アクションプラン 策定

- ボトルネック的課題に位置づけ、区内飲食店に協力を求め「あだちベジタベライフ協力店」を置く
- スーパー、飲食店、八百屋等、新しい主体との協働がスタート、野菜が食べやすい環境づくりを推進
- 北足立市場と協定締結

専門家の強みによる協働の深化

平成26年度 糖尿病対策アクションプラン 改定

- 医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携による糖尿病対策「プロジェクトU\_7」（ヘモグロビンA1cを7%未満に保つ）推進

平成27年度 薬剤師会との重症化予防フォロー事業（薬局でのヘモグロビンA1c測定の結果、糖尿病が疑われる方に医療機関の受診勧奨を実施）がスタート

企業が協創を発信

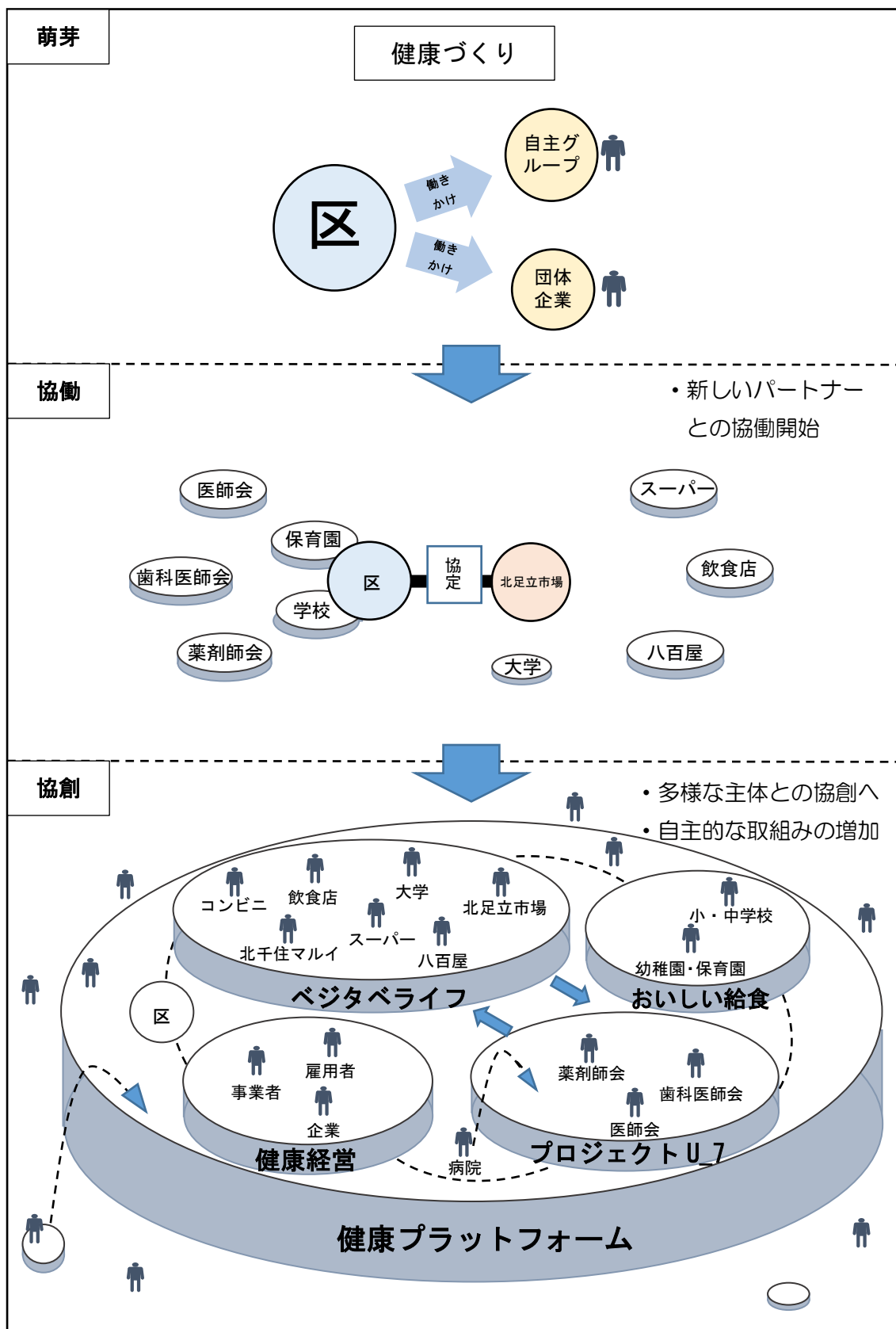
平成29年度 健康・ヘルシーをキーワードとした食のゾーンが北千住マルイに誕生

- 足立区食育推進計画とおいしい給食推進事業を一本化。区立保育園で施されている「一口目は野菜から」が小・中学校にも拡大

協創

平成30年度 野菜を食べやすい環境づくりのため、ベジタベライフ協力店の新規開拓を行う

- 食育月間に合わせベジタベライフ協力店での「売れるベジタベメニュー」を開発する（協創）
- より広がりのある事業展開を目指し、民間企業を巻き込む、健康経営の新たな仕組みづくり



平成23年度

「健康あだち21行動計画」策定後10年の取り組みを評価・分析。あわせて区民の意識調査を精査し課題を抽出。



目的の共有

足立区民の健康寿命を都平均に近づける  
住んでいるだけで健康になるまでに

糖尿病をはじめとする生活習慣病が原因で、足立区民の健康寿命は都平均より2歳も短いのか・・・



平成25年度～

「健康」を足立区のボトルネック的課題と位置づける。糖尿病対策として「あだちベジタベライフ」始動。庁内連携体制を構築。



相乗効果



協定



青果小売店等へアプローチします！

北足立市場

連携



糖尿病が疑われる方に、医療機関の受診を勧奨します

薬剤師会



多様性(広がり)

それまでは医療・衛生関係者とのつながりが多かったが、教育や防災など、多様な分野でもベジタベライフが関わるようになった。

おいしい給食を通して「野菜から食べる」ベジファーストを実践します

保育園・学校

健康づくり推進委員がベジファーストの啓発を行います

住区センター

お客様感謝デーの景品に野菜を取り入れます

足立成和信金

期限切れ前非常食を活用し、野菜をプラスした食べ方を紹介します

防災分野(区)

野菜を使った鍋を皆で食べて暖をとることで省エネにつなげます

環境分野(区)

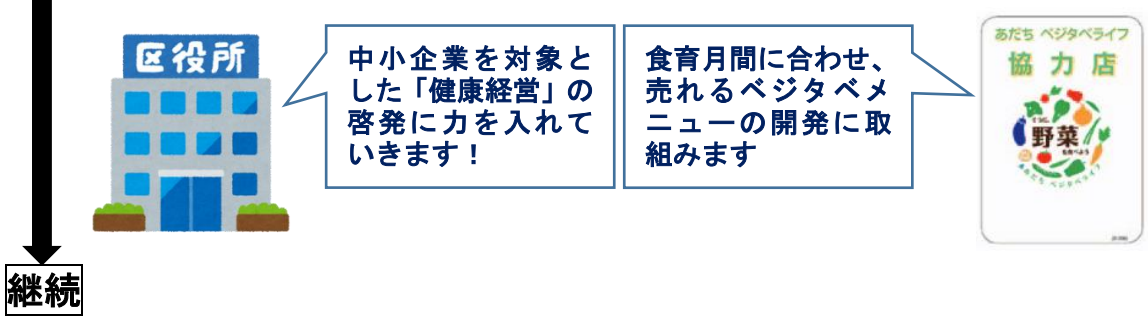


平成29年度

健康・ヘルシーをテーマとした食のゾーンが北千住マルイに誕生

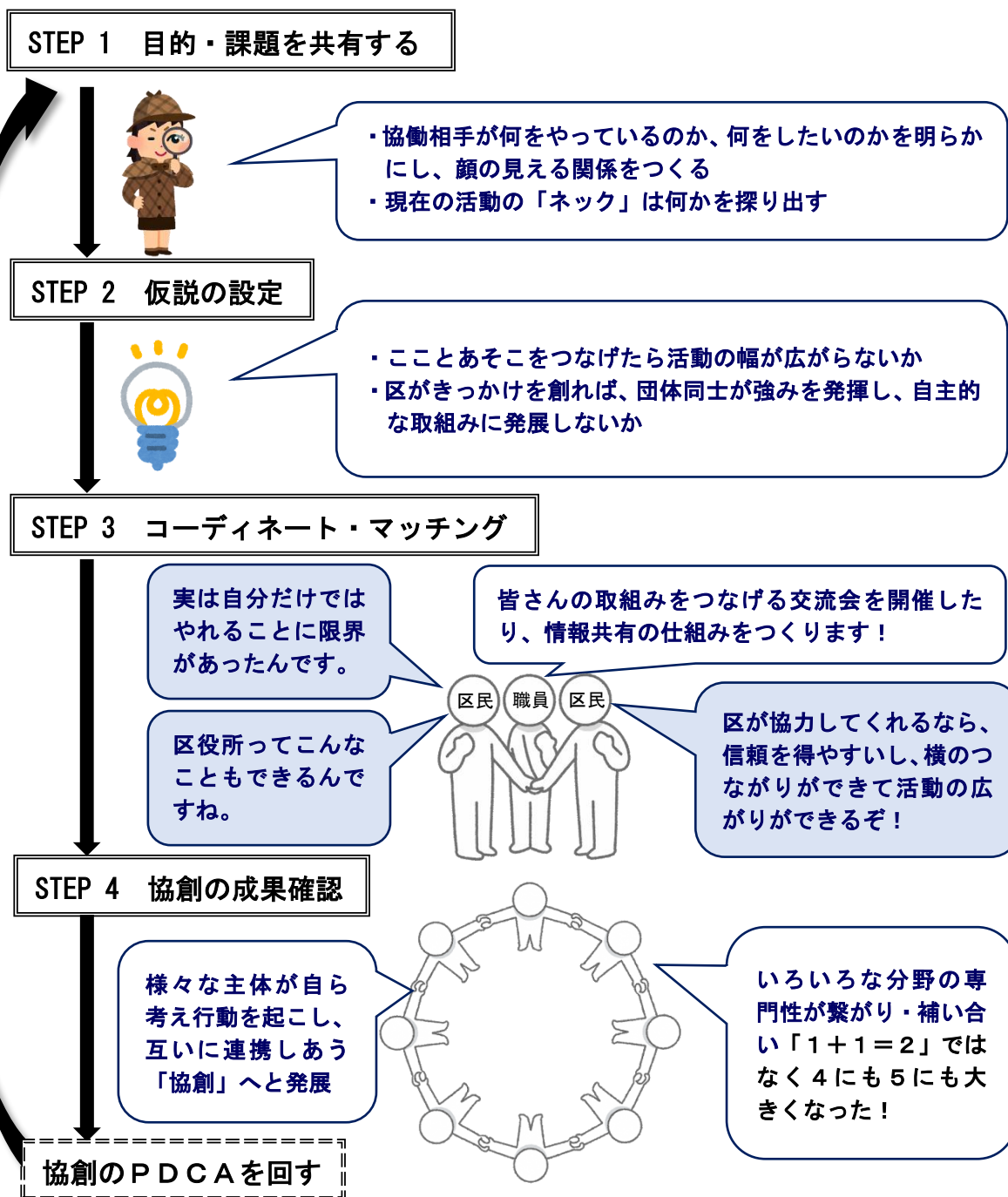


平成30年度



## 第3章 協創を推進するポイント

本章では、区や各主体が協創を推進するための行動例をフローチャートで示します。区職員に求められる力は、何と何を繋げたら当面の課題の解決に繋がるかという「発想力」と、多様な主体を積極的に繋げ発展させていく「コーディネート力」です。まずは、行動することからスタートしましょう。



※仮説・プラン策定（P）、コーディネート・マッチング（D）・成果確認（C）・改善（A）

協働・協創を推進するうえでの視点

		要素	望ましい状態	協働・協創を推進するために意識すること
協働	協	目的の共有	主体同士が事業の意義・目的を理解し、協力しあっている	○目的・ゴールを相互に理解していますか？
		透明性	情報公開により機会の均等、プロセスの透明性・公平性・合理性が保たれている	○事業の開始段階において、誰もが情報を入手できるよう公開していますか？ ○指標・目標を設定・公表していますか？
		相乗効果	主体同士が互いの特長を理解しあい、単独ではなし得ない効果をあげている	○主体の得意分野(強み)を發揮できるよう工夫していますか？
	創	多様性 (広がり)	区民・NPO・企業など、多種多様な主体が参加し、かつ相互にコミュニケーションがはかられている	○多様な主体が参加できる場や機会があり、それをPRしていますか？ ○多様な主体に働きかけ、主体同士をつなぐマッチングを行っていますか？
		自主性 (深まり)	地域課題の解決や地域の魅力創出のため、各主体の自主的な活動が始まっており、当初の指標・目標を超えた成果が期待できる	○各主体が当事者意識を持って取組めるような働きかけをしていますか？ ○企業・団体・区民等、参加主体にも満足感が得られるような工夫や支援がありますか？

## 第4章 協創に向けての自己点検

---

新基本構想で掲げた理念「協創」。本理念を区民と行政が共有し、足立区が目指すべき将来像を実現するためには、本手引書で示した視点を区職員が自らの業務に落とし込み、当事者意識を持って職務を遂行することが必要です。これまで行政だけでは届かなかった地域課題の解決や、区の新しい魅力の創出に向けて、多様な主体が手を取り合い、それぞれの強みを発揮できる土台（＝プラットフォーム）をつくるのが、区職員に求められているからです。

とは言っても、具体的に何をどのようにすれば、そのような土台をつくっていけるのか、途方に暮れる人も多いはず。そこでまず、自らの業務を点検するところからはじめましょう。課題を整理し、日ごろ疑問に感じていること、新しいアイデアなどを書き出してみるのです。

一気に「協創」を目指す必要はありません。まずは、停滞している施策や事業を洗い出し、滞りのネック（1つとは限りません）はどこかを考えてみましょう。中には、すでに役割を終えているような施策や事業があるかもしれません。また、少子・超高齢社会といった時代背景や、区民ニーズの変化などの影響で、軌道修正をせまられているものもあるかもしれません。

それぞれの所管でも区民（個人）や団体・NPO・企業等、多様な主体と関係し取り組んでいる施策や事業は多いはず。この機会に、協力や協働の途中で足踏みしているそれらに光を当てて、ぜひ、協創へと導いてください。ひょっとすると、意外なところに、可能性の芽が隠れているかもしれません。

## 協働・協創自己点検チェックシートの使い方と活用方法

### 使い方

各項目の質問に答える形で自分の業務を点検してみてください。P18・19にはチェックシートを記入するうえでのヒントを記載しています。

- ① 行政評価の個別事務事業評価で、「協働している」「協創の可能性ある」のボタンにチェックが入った事業毎に書いてください。
- ② 一つの事務事業を複数の職員で担当している場合でも、職員一人ひとり作成してください。
- ③ 回答が「はい」の場合でも、ヒントを参照して、事業内容の点検、確認をしてください。「いいえ」の場合は、なぜ「いいえ」なのか、理由や要因を考えてみましょう。
- ④ 計画策定や、協創になじまない事業を所管する部門が使用する場合は、できる範囲での記入をお願いします。

### 活用方法

協働をベースに協創へと進んでいくためには、まず自分の担当業務が、協働の発展過程のどの位置にあるのかを知ることが必要です。その一助となるのが本チェックシートです。協創への発展が滞っている事業については改善のきっかけとし、協創へと進みつつある事業については、さらに加速できるよう取り組んでください。発展が滞っているときこそ、多様な主体と共に相談し合い、柔軟な発想で、お互いの強みを活かして解決策を導きましょう。

本チェックシートでは、協創のポイントを「コーディネート」としていますが、これは協創の手段であり、目的ではありません。協創のゴールはあくまでも「持続可能なまちづくり」です。協創が進み、区が主導しなくても、主体の自主的な活動が見られてきたら、区は多様な主体の一員として、その活動への支援や情報提供を行うことで、持続的に活動し続けられる仕組みを後押ししていく役割へと軸足を移していく必要があります。

足立区の目指す「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち足立」を創り上げていくためには、常に新たな課題へと挑戦していくことが求められますが、それを乗り越えていくためのきっかけとして、本チェックシートをご活用いただけたらと思います。

協働・協創自己点検チェックシート（考える上でのヒント）

1	あなたの業務（事業）は何ですか？
	○事業の連携などで直接予算を持っていない事業も書いてください
2	業務（事業）の目的は具体的になっていますか？
	○その目的は何ですか ○具体的でない理由は何ですか ○具体的にならない障壁は何ですか
3	目標とする指標（成果）などが数値化されていますか？
	○数値は何ですか ○成果指標ですか、行動指標ですか ○数値化できない理由は何ですか
4	協働の相手（主体・パートナー）は誰ですか？
	○複数記入も可
5	主体・パートナーと顔の見える関係ができていますか？
	○お互いに言いたいことが言える関係ですか ○会う頻度はどの程度ですか ○関係を良くするために行動していることは何ですか
6	主体・パートナーと目的を共有できていますか？
	○お互いの立場を理解していますか ○役割分担ができていますか ○目的共有のための努力をしていますか
7	区からの情報提供とともに、主体・パートナーからも情報を入手する仕組みはありますか？
	○その情報は具体的に何ですか ○情報発信・交換のツールは何ですか ○情報共有できないのはなぜですか
8	主体・パートナーの強みを分析できていますか？
	○その強みは何ですか ○弱みは知っていますか ○強みを引き出す工夫をしていますか ○主体に何を期待しますか
9	主体・パートナーと継続した活動がありますか？
	○継続していくための支援内容は何ですか ○継続のための課題は何ですか ○継続しながら事業の拡大や深まりがありますか

10 活動にあたり、課題やネック（障壁）は何ですか？
○それぞれの事業により、課題の内容も多岐に渡ると思います。そのため、克服方法もそれぞれのケースによって異なることが考えられますが、先に示した協創の事例なども参考に、所管事業における課題の克服方法もあわせて考えてみましょう。
11 業務（事業）の途中で、進捗の確認や振り返りを行っていますか？
○どんな方法で振り返りを行っていますか ○相手と一緒にいるか ○振り返りができない理由は何ですか

**ここから協創のチェック**

事業開始時と比べ、多様な主体の参加（広がり）が見られますか？	
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<p>「いいえ」の場合、どういった行動をとれば広がりかかるとおもいますか？</p> <p>協創が進むと多様な主体がつながり、活動のプラットフォームが構築されます。区はその一主体として活動を支援します。</p>
事業開始時と比べ、主体の自主的な活動（深まり）が見られてきましたか？	
<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<p>「いいえ」の場合、どういった行動をとれば深まりかかるとおもいますか？</p> <p>協創が進むと区の間接関与が薄くなり、主体が自走して事業を行っていきます。その際も協創の状態を区は知っておく必要があります。</p>
広がりや深まりがない場合、事業自体の役目を終えていませんか？	
<p>○広がりや深まりが見られない場合、チャートの「いいえ」に立ち戻り、協働の振り返りを行います</p> <p>○広がりや深まりがあっても、協創を深化させるために、区のコーディネーターが必要な場合があります</p>	
主体同士をつなぐきっかけづくりやコーディネートをしていますか？	
<p>○コーディネーターができない場合は、まだ主体同士をつなぐ段階でないこともあります。</p> <p>協働に戻り、目的の共有や課題の再点検を行いましょ</p>	

具体的に何をしていますか？

活動を発展させるために、どんなことができると思いますか？

さらなる発展を目指し、PDCAを回しましょう

協創へ導けるよう、創意工夫をしていきましょう

協働・協創自己点検チェックシート

1	あなたの業務（事業）は何ですか？		
2	業務（事業）の目的は具体的になっていますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )
3	目標とする指標（成果）などが数値化されていますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )
4	協働の相手（主体・パートナー）は誰ですか？		
5	主体・パートナーと顔の見える関係ができていますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )
6	主体・パートナーと目的を共有できていますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )
7	区からの情報提供とともに、主体・パートナーからも情報入手する仕組みはありますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )
8	主体・パートナーの強みを分析できていますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )
9	主体・パートナーと継続した活動がありますか？		
	<input type="checkbox"/> はい (	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> どちらともいえない )





協働・協創 推進の手引き

平成30年8月発行

発行 足立区

編集 足立区 政策経営部 協働・協創推進担当課

〒120-8510

足立区中央本町一丁目17番1号

電話 03-3880-5748 (直)

FAX 03-3880-5610

E-mail [kyoso@city.adachi.tokyo.jp](mailto:kyoso@city.adachi.tokyo.jp)